

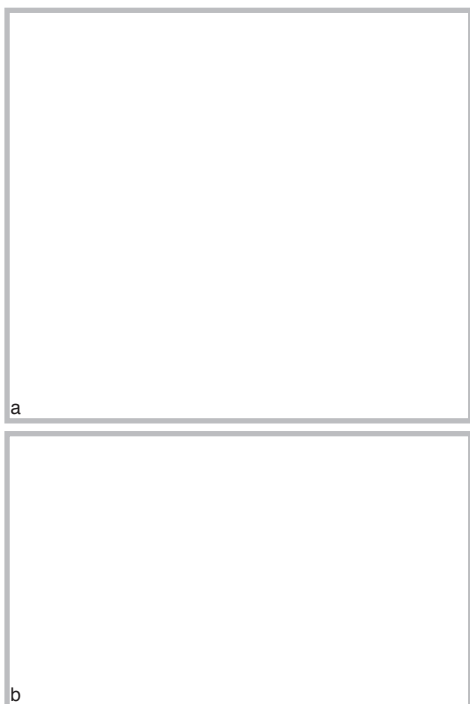


図 7.5 急性湿疹 (acute eczema)
a：顔面に多発する浮腫性紅斑。b：掻痒性紅斑ならびに浸潤性の小丘疹が混在する。一部で小水疱も認める。



図 7.6 慢性湿疹 (chronic eczema)
角層が肥厚し、胼胝状になっている。紅斑ならびに亀裂も生じている。

分類

慣用的に主に病因に基づいて表 7.1 のように分類されている。実際にはこれらの病因は複雑で、病態も多様であり、これらの疾患の定義や病態は、必ずしも明確なものではない。国によっても使用される病名は異なる。

a. 原因が明らかでない、いわゆる“湿疹” eczema with unidentified cause

臨床的にいわゆる“湿疹”と診断されるが、原因が明らかでない場合、便宜的に臨床所見や皮疹経過、病理所見から、急性、慢性湿疹という診断名が用いられる。明確な定義はなく、同じ個体にさまざまなステージの湿疹病変が混在していることが多い。「原因なくして皮疹なし」という言葉のとおり、たとえ原因を特定することができない場合であっても、“湿疹”の多くは何らかの外来性物質による刺激性接触皮膚炎（後述）と考えられている。

治療はいずれもステロイド外用、抗ヒスタミン薬内服である。

1. 急性湿疹 acute eczema ★

湿疹のうち、臨床的に滲出性紅斑、浮腫、ときに小水疱を伴い（図 7.5）、発症後数日しか経過していないものである。病理学的には明らかな海綿状態と強い真皮の浮腫、炎症細胞浸潤を伴う。皮疹が生じて間もないため、表皮肥厚は通常伴わない。

2. 慢性湿疹 chronic eczema ★

臨床的に苔癬化を伴い、発症してから1週間以上経過している場合が多い。表皮肥厚、不全角化が目立ち（図 7.6）、炎症細胞の表皮内浸潤は少ない。

b. 接触皮膚炎 contact dermatitis ★

Essence

- いわゆる“かぶれ”。外界物質の刺激、あるいは外界物質に対するアレルギー反応によって生じる。
- 接触部位に一致して発赤や水疱などの湿疹反応を示す。
- 原因物質によって、毒性により誰にでも生じうる刺激性接触皮膚炎と、アレルギー機序により感作された人に生じるアレルギー性接触皮膚炎に大別される。